

令和5年度 共創型研究推進事業 採択結果

研究代表者	研究題目	支援額
青木 憲治 (グローバル共創科学部)	地域循環共生圏形成に寄与する、持続可能な社会の担い手育成 (ESD) プログラム作成に向けた予備的調査研究	¥400,000
鮫島 玲子 (農学部)	根粒菌ゲノムにおけるN ₂ O還元遺伝子の進化と可動性に関する研究	¥300,000
朱 曄 (グローバル共創科学部)	デジタル時代における高齢者支援策の模索 —データ利活用の仕組みの構築を中心に	¥240,000
崔 宰熏 (グローバル共創科学部)	担子菌における一酸化窒素の代謝機構	¥360,000
藤井 真生 (人文社会科学部)	地域の歴史文化を活用した日本酒開発とコミュニティ形成	¥500,000
宮地 歌織 (男女共同参画推進室)	プロスポーツ分野における多文化共生に向けての人類学的調査研究	¥300,000
本橋 令子 (農学部)	アマモのストレス応答メカニズムの解明し、海水温上昇による生育への影響を明らかにする	¥900,000
※50音順 (支援合計額)		¥3,000,000

選考の経緯

グローバル共創科学部内に選考委員会（教員 5 名で構成）を設置し、書類審査及び合議審査により採択課題及び支援額を決定した。

（書類審査）

提出された申請書を(1) 目的・概要（10 点満点）、(2) 研究計画（10 点満点）、(3) 独創性・新規性（10 点満点）、(4) 共創的に行う意義（30 点満点）、(5) その他（10 点満点：特筆すべき研究業績、競争的外部資金獲得状況、学内にて支援されている研究資金、特記事項を総合的に判断）を基準に採点した（70 点満点）。

（合議審査）

書類審査の結果を踏まえ、書類審査の順位に従って、研究の方向性・重要性とともに、共創的研究としての重要性・将来性に主眼を置き審査し、採否及び支援額を決定した。

（選考において重要視した点）

書類選考において「共創的に行う意義」を 30 点満点にしているように、提案された研究課題が如何に共創的かを重要視した。募集要項において共創的研究を、「個々のディシプリンベースの専門知識・技術をもとに、グローバル化した社会の新たな諸課題の発見や解決を目指した研究、特に地球の持続可能性など地球的・人類的課題に関する研究や、文理融合を含め複数の大きく異なる専門領域にまたがる学際的研究等を意味する。」と定義しているが、特に二重下線部分を最重要視した。

さらに、合議審査で行われたように、「研究の方向性・重要性とともに、共創的研究としての重要性・将来性」も重要視した。

今回の申請では、提案された研究課題が「具体的に何を行うのか？」を記載していないケースがあり、支援希望額がどの様に使用されるのか不明瞭であったため、減額した課題もあった。